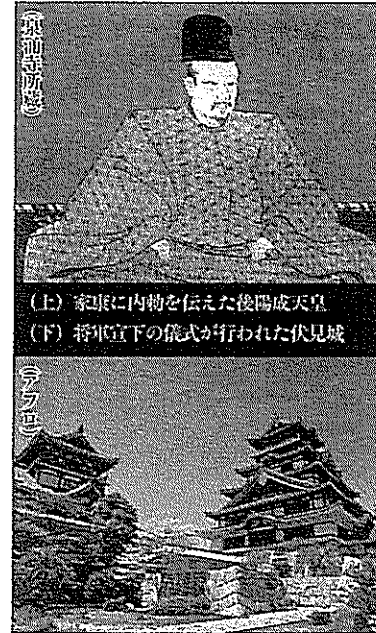


将軍の世紀

やまうち まさゆき
山内昌之
歴史学者・
東京大学名誉教授

【第四回】 将軍宣下

将軍となった家康が拘ったのは、「朝廷の外部」に政権を作ることだった――



(上) 家康に内物を伝えた後陽成天皇
(下) 将軍宣下の儀式が行われた伏見城

一、北政所と関ヶ原

時間が静かに流れる京都の禁裏（朝廷）でも、関ヶ原合戦の折には何かと気忙しげであった。当日、豊臣秀頼は禁裏に黄金五枚を献上しているが、注目されるのは秀吉の正夫人、北政所の動きである。天皇の動静を女官たちが当番制で記録した『お湯殿の上の日記』によれば、合戦から二日後、「せ上（世情）なにとやらんさうさう（騒々）しきにつきて」、同母弟の八条宮智仁親王らが見舞いに来ただけでなく、北政所も何やらせわしなく「しゅこう」（准三后）こと新上東門院を訪ねてきた。しかし、この後陽成天皇の生母勸修寺晴子が聞いた話の内容は穏やかではない。北政所は「しろへひをかけ候はん」と大胆な言葉を口に出したからだ。それでも彼女はまず女院に庇護を求め、そのまま御所に匿ってもらった（慶長五年九月十七日条）。

火を放つ「しろ」とは、聚楽第を毀した後に御所南東に作った京都新城（太閤御屋敷）を指すのだろう。自分の住む屋敷を捨て、あわただしく女院に保護を頼んだ事実は、関ヶ原合戦で彼女が淀殿と提携しながら、西軍寄りの立場を取ったという見方を補強する証左かもしれない。

後、秀吉の定めた五大老五奉行制は崩壊した。それでも、天下の公儀としての豊臣家の意思決定システムは形式として消滅せず、家康とその出頭人の井伊直政と本多正信を中心に代行され、徳川の意志と実権が新たに天下の政治を次第に動かすようになった。

北政所は、関ヶ原合戦後の新たな政治力学の本質をリアルイズムの観点から見抜いた一人であろう。小牧長久手で一敗地にまみれた秀吉は、家康に上洛を求めて政治的に失地を回復しようとした。秀吉を戦場で破りながら、その後は戦争を避けて天下を夫に譲った家康の器量をいち早く見抜いたのは彼女ではないだろうか。江戸中期の儒学者室鳩巢の随筆集『駁台雑話』（巻三）に紹介された家康の言葉は味わい深い。

「私は、秀吉の威勢に恐れて京都に出かけようというわけでない。よく考えて見よ。天下の兵乱が長い事打ち続いて、戦争が止むことはない。町も村も安心できないのではないか。ここ一、二年になって、天下はようやく穏やかに治まろうとしているのに、自分が秀吉と干戈を交えるなら、再び争乱が始まって天下には大変な難儀となるに違いない。私は、もし上京して思わざる異常事態に遭っても、その時は天下のために一命を捨てようと思悟したのだ」

い。ちなみに『お湯殿の上の日記』の名は、禁裏の御湯殿の傍らに女官控えの間があったことに由来する。

北政所は、公家最高の官職関白太政大臣を務めた秀吉の正夫人として、従一位という女性の最高位階を極めていた。豊臣秀吉に擁立された後陽成天皇ともども北政所も政治力学の急速な変動に狼狽したのではないか。彼女が御所に駆け込む姿は、福島正則や加藤清正ら子飼いの武将、浅野幸長や小早川秀秋ら縁故の大名に家康への味方を説いたという解釈を疑わしくする。二十日の『お湯殿の上の日記』は、家康が戦場から大津まで上ってきたので、勸修寺光豊（女院の甥）を使いに出すとある。女御の近衛前子も、北政所を擁護し、御服五襲、御褥五色五荷を下賜した。北政所が二十二日に「しろ」へ帰ったのは、家康から身の安全が保証されたからだろうか。一週間後、彼女が貴重品の初銚を禁裏に献上したのは保護への謝意であろう。家康も負けていない。さらに一週間経つと、家康は初銚を続ぎまに献上して、宮中に手を入れている（『お湯殿の上の日記』九、慶長五年九月二十九日、十月七日、十四日各条）。

いずれにせよ、石田三成や増田長盛や長束正家らの奉行が西軍方の有力大名であり、毛利輝元や宇喜多秀家それに上杉景勝らの大老も西軍に属したために、関ヶ原以

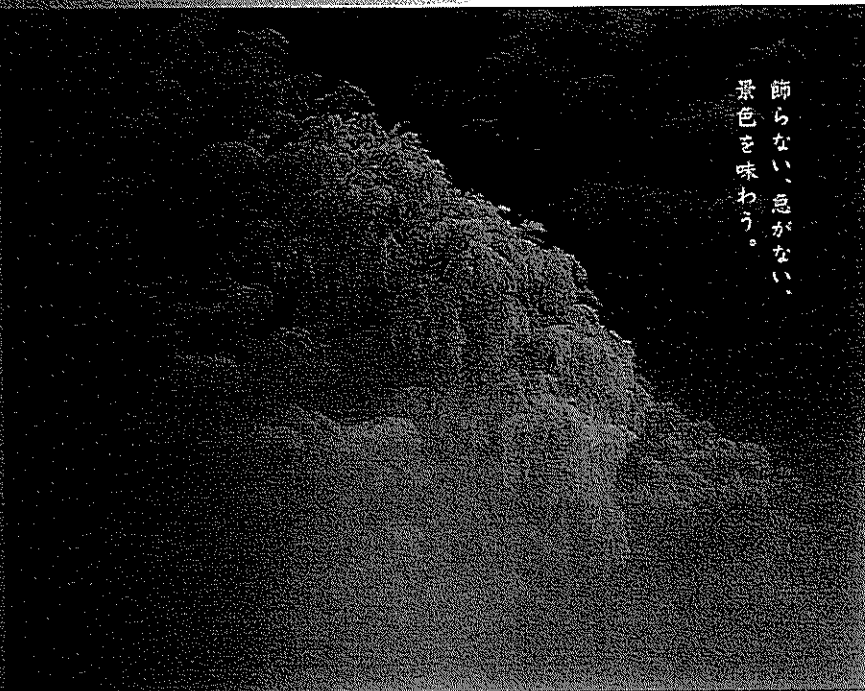
文藝春秋

大正十二年一月三十日第三版発行
 平成三十年四月一日発行(毎月一日発行)
 第九十六巻第四号三月九日発行

緊急特集 米朝激突クライマックス 95th
 戦争か核容認か 手嶋龍一×佐藤 優
 大型企画 亡き妻へ 亡き夫へ / 許永中の告白 / W芥川賞の師弟 四月号



凸版印刷株式会社印刷
 Printed in Japan



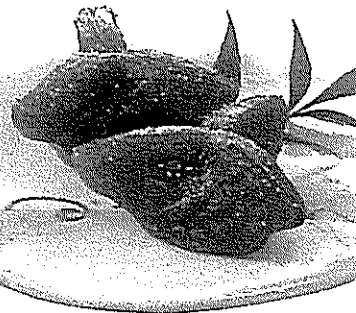
師らない、急がない、
 景色を味わう。

文藝春秋 95 亡き妻へ 亡き夫へ 95 4 2018

家伝
ゆべし



変わらない、ふるさとの笑顔。
 変わらない、ふるさとの味わい。
 変わらない、ぬくもりを一緒に添えて...
 お土産は、かんのや「家伝ゆべし」。



まごころに おいしさ咲かせて
かんのや

本社/福岡県山田市昭和町六丁目字宮本3番地 TEL.0247-62-6056

かんのやオンラインショップ
 家伝ゆべしのご注文はこちらまで
 かんのみ



全国発送承ります。
 インターネット (24時間受付) www.yubeshi.co.jp
 お電話で (受付時間9:00-17:00) ☎ 0120-040-141

4910077010481-04



4910077010481
 00815